



新年度を迎えて

新年度を迎えて新しく大学教員31人、事務系職員9人、高校・中学校6人、学園合わせて46人の方々を迎えることになりました。心から歓迎いたします。一方、3月末には、教職員41人の方々が退職されました。これまでの学園を支えてくださったことに心から感謝いたします。

今年度の学園の新入生は、大学2,778人（+3年次編入学生6人=2,784人）、大学院131人、中部大学第一高等学校408人、中部大学春日丘高等学校521人、中部大学春日丘中学校102人で、総数3,940人の入学者です。去年と比べますと若干増えており、学園の総学生数が14,284人です。いずれの学校も定員を満たしており、入試関係の皆さんの努力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

次に、現在の理事・評議員です。新たに理事に、京都大学特別教授の松沢哲郎先生に入ってくださいました。それから、濱口道成先生です。前名古屋大学総長で、今はJST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の理事長をしていらっしゃいます。稲崎一郎先生はこの前まで中部高等学術研究所の所長をしていただいておりますので、皆さんよくご存じだと思います。監事として、坪井和男先生に加わっていただいております。評議員には、辻村宏和先生と河内信幸先生、お二人とも新しく学部長になられたのでお入りいただくことになりました。どうぞよろしく申し上げます。

【理事】

松沢哲郎先生 京都大学高等研究院特別教授
公益財団法人日本モンキーセンター常務理事、所長

濱口道成先生 国立研究開発法人科学技術振興機構理事長
稲崎一郎先生 中部大学名誉教授

【監事】

坪井和男先生 中部大学名誉教授

学校法人中部大学理事長 中部大学総長
飯吉厚夫



【評議員】

辻村宏和先生 経営情報学部長
河内信幸先生 国際関係学部長

学園ビジョン2015-2020の実行計画策定について

さて、昨年春の教員総会で一昨年の大学開学50周年後の将来展望と直近の2015-2020の5年間の学園のビジョンを提示いたしました。なぜ将来計画かということ、今まで中部大学は工科系の大学から総合大学になるということに努力を重ねてきました。そういう意味では成長路線を歩んできたわけですが、やはりこれからの少子化の時代に向けて、どんどん増やすだけでは、やがてデッドロックが来るであろうということもありまして方向転換をして、サステナブル（持続可能な）路線に舵をさるといった基本的な考え方です。いってみれば、量から質への転換と申し上げてもよろしいかと思えます。

まず、1. 教育改革、2. 先端教育環境の整備・充実、3. 研究力の向上、4. 財政基盤の強化と見える化、5. 女子学生・生徒の入学拡充、という項目を設定いたしました。

各項目ごとにワーキンググループをつくり、検討いただき、今後5年間の実行計画をとりまとめる段階に入っております。

○教育力＝知識偏重から人間力重視へ

教育力については、偏差値から人間力教育、知識ばかりを詰め込むばかりではなくて、人間力をバランスよく付けてくださいということです。以前から、中部大学はカリキュラムが多すぎるのではないかと申し上げておりました。授業科目を精選してくださいと。それにより少し先生方にも学生たちにもゆとりができて、その間に新しい試みもできるのではないかと。その具体的な数値も書かれています。

アルバイトをする学生が多い。授業が終わるとすぐに都心に帰ってアルバイトをする。それならば学内でアルバイトを

した方がいいのではないかと。アルバイトという表現が正しいかどうか分かりませんが、学内インターンシップ制度と言ってよいのではないかとと思いますが、例えば図書館で働くとか、大学の業務の中に参加して、指導を受けながらある種の大学業務のインターンシップを行うと同時に給料をもらってアルバイトの代わりにするとか、こういうことをもっと広げたらどうかということです。現在もやっておりますが、それを20%の学生を対象を広げるという目標になっております。

○先端教育環境の整備充実

先端教育環境の整備充実には、工学系が今まで少し置き去りにされてきたところがあります。新しい学部をどんどん作るために、肝心の工学部への投資が必ずしも十分ではなかったという反省もありまして、先端教育設備に少しお金を、10億円くらいを投資しようという案です。

○女子学生・生徒の入学者拡充

次に、女子学生・生徒の入学者の充実です。どう考えても中部大学には女子学生が少ないし、教員にも女性の先生方が少ないということです。何よりも管理職にほとんどゼロですね。そういうことを考えて、女子学生を増やすためには、女性の教職員がいることが非常に大事であろうということです。それを実行するために女子学生生徒支援室というのも早急に作らせていただくということです。

○研究力

次に研究力の話です。中部大学は私立大学としては、近郊でも教育にも力を入れている大学として定評が出てきておりますけれども、今まではその一つの指標として、科学研究費をどれだけ取っているということが中心でした。この地方ではいつも名城大学とトップを争っています。最近では中部大学の方が少し良いようです。しかし、科学研究費だけで評価するのではなく、もう少し別の評価ができないかと常日頃考えておりました。幸い、今回「Nature Index」という、Natureがいろいろな論文や研究所を評価するというをしている。その中に「Nature Index Japan」という、日本にターゲットを絞って評価をしたものがあります。今年の部門を見ますと、Nature ですから Science ですけれども、Science 全

般で国公立・私立の中で中部大学は54位。私立大学では第6位という指標が出てきました。これも大変喜ばしいことだと思っています。中部大学の実力が客観的に評価されたということです。「Nature Index」には、特にこの数年間で伸びた研究機関はどこだろうかというもので出ておまして、中部大学は5番目です。原文の中には、小さいけれども地方の大学でもきりと光る研究機関があるのが中部大学です。大変うれしく思いましたので皆さんと共有したいと思ってお持ちしました。

○財政基盤の強化と見える化

収入の大半が学生の納付金です。支出のうち、60%に近い50%が学園の人件費比率です。収入は他にも補助金、外部資金、寄付金などいろいろありますが、そういうものを加味しますと学園の収入は210億円くらいです。収支差額が平成23年までは数年間赤字でできておりました。新しいものを作ったりしておりましたので赤字になるのはある程度やむを得ないですが、平成24年度から黒字になり現在黒字で推移してきております。今は約45～50億円くらい留保金を持っております。今後のために100億円近くくらいまで貯めたいと思っておりますが、少し時間がかかると思います。現在のプライマリーバランスはポジティブです。皆さんのご協力があることで、感謝申し上げたいと思っております。

学園の最近の動きについて

次に、学園の最近の動きについて報告します。

○不言実行館の活動本格化

1つ目は、不言実行館の活動です。徐々に活動が活発化しております。学生たちコモンズサポーターが2～30人おり、中心となって企画をしたりガイダンスなどを行っております。もちろん先生方にも支援していただく必要がありますが、どういう支援をしていくか、いま試行錯誤しております。

○事務部門の大移動の完了

2つ目は、事務部門の大移動が完了して、雰囲気明るくなったこともうれしいことです。



コモンズサポーターの学生



不言実行館 ACTIVE PLAZA4階 学生支援課、教務支援課

○併設校の校名変更

3つ目は、併設校の校名が本日から「中部大学春日丘高等学校」「中部大学春日丘中学校」に変更となりました。これにより、学園としての一体感が強まり、さらに高大連携が一段と強化・推進されることを期待しています。その要として中部大学の責任が一段と重くなりますので、教職員の皆さんよろしくお祈りします。

中部大学春日丘高等学校

中部大学春日丘中学校

併設校 校名変更後のロゴ

○新学科設置

4つ目は、工学部新学科の新設です。工学部の改組で電気システム工学科、電子情報工学科、情報工学科の3つの学科を2つにして、1つ新しく宇宙航空理工学科（仮称）の新設を行います。この界限はMRJ（三菱リージョナルジェット）に代表されるように、飛行機産業のメッカでありますし、ロケットもこの辺りで作られている。このようなこともありましてこういう学科を作ります。発足は平成30年4月の予定です。

○文化財の寄贈

5つ目は、最近いくつかの貴重な文化財の寄贈等がありました。

まず、当学園学事顧問でユネスコ前事務総長の松浦晃一郎先生から、コートジボワール、ナイジェリアなど西アフリカの木像（仮面、彫刻など）が約100点寄贈され、平成28年5月、民族資料博物館の一角に「松浦コレクション」として展示されます。5月10日に松浦コレクション公開記念シンポジウムが開催される予定です。どうぞご参加いただければと思います。

元東海大学教授でレーザ工学の権威である藤岡知夫先生から蝶の標本が約2,000箱、推定22万頭の寄贈があり、三浦記念会館2階に収蔵いたしました。日本蝶の世界一のコレクションであり、大英博物館やドイツ博物館からもぜひと言われた貴重なコレクションです。本日から「中部大学蝶類研究資料館」として発足します。なお、7月30日にオープニングセレモニーを実施する予定になっています。併せて、応用生物学部の関村利朗教授（応用生物化学科）の専門分野のチョウの斑紋多様性に関する国際研究集会在8月1～3日に開かれる予定です。

いずれも、今後の教育研究資料として活用されるものと期待しています。

藤岡知夫先生は、前回の50周年記念のときに関西フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮として指揮をしていただいた藤岡幸夫さんのお父様であります。

○「創発学術院」の設置

6つ目は、「創発学術院」設置についてです。

経緯と趣旨を簡単に申しますと、卓越した研究者を学内外から集めて、既存の学問領域を超えた、新しい学問の開拓と発信を、中部大学からしていきたいという趣旨です。1年ほど前から、先ほど理事でご紹介しました松沢先生と非常に密接な関係になりまして、松沢先生と数学者の森重文先生のお二人が中部大学にご協力いただけるお話がありました。そこで京都大学と中部大学の総長間で両大学の間の新しい形の連携への道を探る目的で検討されたものです。

組織として、京都大学は高等研究院、そのカウンターパートとして中部大学は創発学術院を、いずれも総長特区として4月1日付で設置されることになりました。

主な研究者候補として次の方を考えています。（敬称略）

○森 重文（京都大学特別教授、高等研究院長、フィールズ賞受賞者、文化功労者）

○松沢哲郎（本学園理事、京都大学特別教授、文化功労者）

○山本 尚（本学教授、日本学士院賞受賞者）

○安藤隆穂（本学教授、日本学士院賞受賞者）

この方々に限るわけではなくて、新しい学問をつくっていくことに興味を持っておられる先生方、若い先生方を含めて、自由な雰囲気であり拘束することなくやっていただきたいと思えます。

設置場所としては、本学16号館10階を使わせていただくこととなります。

どういうものになるのか、両大学とも具体的に何をしていくかはこれから検討していくことになろうと思えますので、どうぞ関心のある先生方は積極的に加わっていただけると大変ありがたいと思っています。